



思斉館だより

佐賀市立小中一貫校思斉館
家庭地域連携部

ふれあい

2013年8月6日 発行

思斉館小中一貫教育の始まりは・・・

小学校から中学校へ進学した生徒の中には、学習や生活環境の変化になじめない事例が多く報告され、「中1ギャップ」として大きな社会問題になっています。これらを解決することは教育界の大きな課題の一つされ、佐賀市においても、小中一貫教育の取り組みが進められる中、2010年、佐賀市教育委員会から、「特色ある学校運営推進事業」の指定を受け、「校舎隣接型」小中一貫校としての研究がスタートしました。これまで小学部高学年の一部教科担任制による授業や小中学部の教員の相互乗り入れ授業、さらには、人権・同和教育、生徒指導等の小中一貫した指導等により、小学部児童の中学部進学に対する不安が軽減され、小中学部間のなめらかな接続という面で一定の成果を上げてきました。また、児童生徒の「学び」と「育ち」の部分に研究の重点を置き、授業を中心とした「学び」、人権・同和教育や学級づくりなど「心の育ち」、そして、それらを支える「家庭・地域との連携」において、児童生徒がお互いに認め合い、高め合うような活動を通して、第1期3年間の小中一貫教育を推進してきました。

その結果、お互いに認め合い、高め合うような活動を通して、児童生徒が相手のことを考えて行動し自尊感情を持つことができるようになってきています。しかし、表現力の育成に関しては、言葉でのコミュニケーションが取れなかったり積極的に人と関わることができなかったりと、まだまだ課題として残ります。

第Ⅱ期目のスタート

となる本年度は、研究の充実期として、これまで第Ⅰ期の実践の検証を行うと共に、

定着のための有効な手だてを全職員で共有することに重点を置き、取り組みの一層の深化を目指したいと考えています。確かな学力の土台となる自尊感情や、他者を認め互いに高め合おうとする人間関係づくりを進めます。表現力育成に関しては、育てたい児童生徒の姿を明確にし、対話と交流を取り入れた授業実践を通して表現力育成を図ります。そのために、全学級・全教科で「話し合い活動」を位置づけた授業実践を行います。

3つの部会を継承し、研究を進めます。

学びづくり部会

○授業の中で、音声言語や文字言語を使って考えを交流したり、高め合ったりする場面を取り入れ、その検証を職員同士で行います。有効な手だては共有し、学習規律の確立と自分の思いを表現できる能力の育成を図ります。

心育て部会

○異学年交流を通して、学級や学校の支持的な人間関係づくり、及びそれを基盤としたより高いものを求め合う人間関係づくりについて研究実践を進めます。

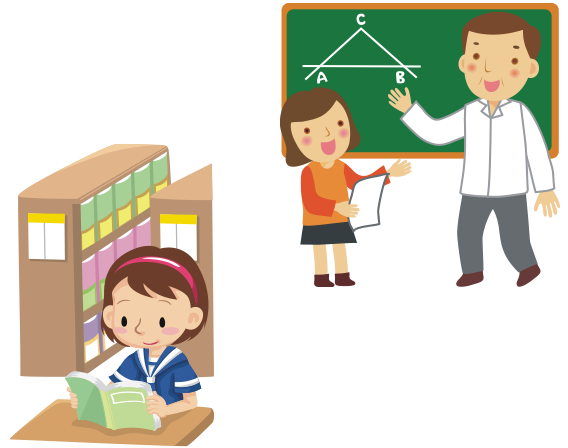
家庭・地域連携部

○家庭での有効な時間活用や家庭学習の効果的なあり方、地域教材や地域人材の発掘や有効活用について研究を行うと共に、広報活動を通して、家庭や地域との連携を推進します。

★学力向上面の課題★

学力・意識調査などから、思斉館の課題をまとめました。

- (1) 基礎学力の定着不足
- (2) 学習意欲の不足
- (3) 知識を基に考えたことを表現する力の不足
- (4) 家庭学習の時間、量や質の問題



学力向上に向け、次の取り組みを行います

☆乗り入れ授業☆

算数・数学、外国語（英語）においては、中学部教師が小学部6年生に、週1回乗り入れ授業を行います。また、他教科においても、発達段階や単元の必要性に応じて、小学部・中学部相互へ乗り入れ授業を行い、より効果的な指導方法を研究していきます。



左の写真は、中学部英語教師による乗り入れ授業の様子です。たくさんの視覚的資料を使いながら、中学校英語科とのつなぎをスムーズにしています。

☆授業研究会の実施☆

ブロック代表による小中合同の授業研究会を年2回実施します。また、学年内の授業研究会を全教師が1回以上行うことにより、指導技術を交流し合い、教師の指導力向上を図ります。



小学部小森校長による1年生算数「なんばんめ」の授業風景。3クラスにそれぞれ2時間ずつ入って、授業を行いました。



小学部6年船津学級算数「比と比の値」の研究授業の様子です。中学部教師もたくさん参観しました。相互研修を進めていきます

※中学部では、英語科の研究授業を実施しました。

☆家庭学習の充実☆

家庭学習をより充実させるため、小学1年生から中学3年生まで統一した「家庭学習の手引き」を作成すると共に、自主的・自発的な家庭学習習慣の確立を図ります。そのためには、ご家庭の協力が不可欠です。

☆表現力育成の取り組み☆

小中統一して朝の時間に「表現タイム」を設定し、自分の思いを相手に適切に伝えるために必要な語彙力の拡充や、表現力の育成を目指した活動を行います。

☆その他の取り組み☆

上記の取り組みの他に、互いに認め励まし合う支持的風土のある学級づくりを進め、立腰やチャイム席などを実施し、授業を受ける姿勢（聞き方や話し方）をしっかりと身につけさせていきます。また、1時間1時間の学習内容の確認を行い、学習の定着を図っていくなど、さまざまな取り組みを計画していきます。